

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成19年12月27日
事業所名	グループホーム円頓寺北館
事業所番号	2370401446
記入者名	職名 管理責任者 氏名 喜楽 未子
連絡先電話番号	052-583-3166

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	"人生楽しく自分らしく"の理念のもとに、その人らしさの引き出し(追求)に心をくだき、地域住民を巻き込んだ実践努力をしている。	今後も地域運営推進会議等で話し合い、催し物を出来る範囲で行い、地域住民を、利用者との接点・融合を探って行ってほしい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の実践を念頭に置き、ユニット会議にて確認している。また、日々常に業務連結、暮らしの中での報告・連絡・相談を心がけている。	報告・連絡・相談の充実に努力されたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議では、出ない意見等が催し物・その反省会が出る場合があり、その都度理解を求めているが、家族会が発足に至っていないのは不十分を認めない。	家族会がない(独居の方が多い)ので、その都度便り等を出し(電話も含む)、もっと参加を呼びかけ、地域住民、家族相互の理解につなげてほしい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民には、常に職員が行動を共にしたり、買い物・散歩の見守り等で少しずつ認知してもらっている。利用者の励みになっている。	行事を機会にケアサービスの充実・向上に役立ててもらおうよう期待する。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会での認知があるが、地域が活動していないようである(老人会)。お祭り、お茶会、盆踊り、サークル会、選挙等地域の行事に積極的に参加している。	学区の中で端に位置しているのでそれを逆手に取り、違う学区にも参加している(例えば展示会、お祭り)。今後も利用者の希望があれば参加されたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献が難しい土地柄であるが、常に利用者と共に活動をし、利用者・地域住民の希望により、館内にてお茶会を催したりしている。		理解のすれ違いの評価もあり、今後はサービスの質向上に向け、もっと職員が黒子になることを心がけてもらいたい。よい理解を得ることを期待したい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価について日々のサービスの中で常に話し合い、ユニット会議または管理者会議で課題を明らかにし、共有しあい、話し合っている。改善課題についても一部取り組んでいる状態である。		評価を受けたことを真摯に受け止め、ユニット会議にはかり、サービス改善に向けて具体化し地域運営推進会議にて報告、理解協力を得る取り組みを期待したい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開いて地域住民からの要望に利用者も答えうる限りの取り組みをしている。その為にも常にサービスの意義を話し合っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の方もホームに訪問があり、相談が出来たりして喜んでもらっている。		関係づくりに一歩ずつの前進を期待したい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	すでに権利擁護を受けている利用者もいて、活動を見聞きできる機会があり、勉強になっている。必要な状況になれば支援してもらいたい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について日々徹底するよう注意を職員間で行っている。勉強については、研修に行った者の報告を聞いたり、勉強会を開いたりしているが、もっと深いものがあるのでこれからも続けてやってもらいたい。		このままで十分であるとは思わないので、まず今の状態は崩さずこれ以上できる事を具体化していく取り組みを期待したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>キーパーソンが替わったりしたときも納得していただくまで話し合っているし、質問状を受けたりし、きちんと回答している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からかなりしっかり言ってもらっているが、やはり言葉にして言えない利用者に対し、職員で報告・連絡・相談を徹底し、日常的に話し合い、ユニット会議においても話し合っている。</p>	<p>家族の方には常に連絡を取り合い、よりよいホームにしていく取り組みを期待したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>身寄りのない利用者、また遠方に親族がいる利用者が多い。定期的に(1ヶ月に1回)近況報告をしている。また訪問されたとき、金銭出納帳は確認してもらっている。</p>	<p>1ヶ月に1回の手紙のほかにも催し物があると利用者から家族にお知らせの便りを出しているが、まだ来訪者が得られないので今後もっと力を入れての取り組みに期待したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・訪問時に意見、不満、希望を拝聴している。ユニット会議で職員十分に話し合いサービスの質の向上に努めてもらいたい。</p>	<p>1つでも多くの意見を言ってもらえるように今後も何でも言える雰囲気作りに努力していくことを期待したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1日の中でも必要に応じて話し合っている。月3回の会議でも何でも話し合える雰囲気作りに努力している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員一同心をくだし、臨機応変に調整をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多かれ少なかれ異動があるとショックはあるようだ。また希望もあるので相殺になっている様であるが、それが良い刺激になる様サービスの質の向上に努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に情報を集め、適任な職員に研修に行ってもらっている。その内容を会議にて報告してもらっている。		職員から勉強したいという希望が多数あり。今後も機会があるごとに参加してもらいたいし、参加することを期待したい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の同業者間でコンソーシアムを月1回開き、勉強会・研修会をし、意見交換をしている。また交換(人材)勉強会にも取り組み、サービスの確認・質向上に取り組んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々話し合い、職員の交流会も開き、ストレス解消に取り組んでいる。		大切な課題であるので、これからも意見を言いやすい環境づくりに努力していくよう取り組んでもらいたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	お互いに壁を作らず話し合いができる状況を作り、各自が向上心を持って努力できる勤務体制に努力している。		大切な課題である。職員の感情も一定に保てるよう常に話し合いをしていく取り組みに期待したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>いろいろな問題を抱えていると思われるが、まずはご自身の口から語ってもらい素直に受けとめることを第1歩としている。一定の職員にとどまることなく、全ての職員と話せる機会を作るようにしている。</p>	<p>日常生活の中で感情の変化に気付きその中でもポイントし、得意な料理・裁縫・農作業・絵画をすることで安らいでもらっているが、今後は展示・販売にも力を入れていく取組みに期待したい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>手紙・アンケート・電話で機会を作って話を良く聞く努力をしている。困っていること求めること何気ない話からわかっていくことが多い。</p>	<p>遠方に住んでいる家族の方にも電話等をきっかけに来訪して下さることもあり、今後も連絡を続けていくよう期待したい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としているサービスを本人を交え家族と話し合い、思いを言ってもらい、よりよい支援につなげている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者・家族の方のホーム見学をしてもらい、ホームでの日常を見ていただく。その中で職員、他の利用者との話もしていただき、その人らしさを見つけ見守りをしていく工夫をしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で見守りを第一にしている。利用者同士のふれあいがかなりあり、その中での喜怒哀楽がとてもよく出て、教えられることが多く楽しく明るいホームになっている。職員がその利用者との時間を共有できることに喜びを感じている。</p>	<p>料理・裁縫・書道・理容・絵画等知識豊富で、感情も豊かである利用者をととても尊敬しているのでこれからも才能を形にしていく取組みに期待したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族のある利用者は少数であるが、結婚式に参列させてもらい、それがきっかけでよりよい関係が築けているケースもある。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面談したり、電話したり、何度も交歓する事でとてもよい関係が生まれている。今後も何でも話し合えるよりよい関係を築いていけるよう努力したい。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自分の家を思い出した利用者がみえ、良い気付きになり、よい支援につながったことがある。		1つの事実からいくつもの歴史が出てくるのでいろいろな人々を巻き込んで、利用者の方にとって何が一番で何が大切なのかしっかりと考え、ケアの取り組みに期待したい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が介護をするという立場に重きを置かず、まず見守りをしている。利用者同士のふれあいが多くあり、その中で職員が楽しませてもらっている。孤立しそうな利用者さんも蔭ながらの声をかけをする努力をし支えあうようにしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の経験がないが、他で知りえた関係の人々とは立ち話しをするくらいである。		生きていくうえでいろいろな人々の関わりがあるので、大事に関係を続けていく努力を期待したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃からご本人の言葉や言葉以外の意思表示を意識して把握し、記録に残している。また、直接言葉にして表現できない場合においてもこのような本人の意思表示を敏感に受け止め、利用者本意を常に意識し把握に努めている。</p>	<p>はっきりと強く意思表示をする方が多いこともあり、直接言葉にして表現できない方に関しては十分であるとはいいがたい。今後、そういった内に秘められた思いや希望の把握にも努める。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人からの普段の会話や行動の中や、面会、電話連絡の際などに御家族に尋ねてその人らしい生活を把握するように努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ご本人の生活ペースを尊重した1日の過ごし方やその時々的心身状態を意識し、マイナスイメージや行動障害ばかりでなく、「できること」に着目してその方を総合的にとらえるように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望・思いを尊重している。また、ユニット会議等においてスタッフからのケアのアイデアを積極的に取りいれている。</p>	<p>さらに今後は、利用者・家族はもちろん、実際にケアを提供するスタッフにもわかりやすく前向きに取り組める計画を目指す。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>主に計画作成担当が日々の記録や過去のケアカンファレンスの記録等を元に1ヶ月に一度モニタリングし、3ヶ月に一度は目標を見直している。また、半年に一度は計画の見直しを行い、それをケアカンファレンスでスタッフに報告をしている。</p>	<p>今後はケアカンファレンスにおいてスタッフと共に新たな目標の設定や計画の見直しを行う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉そのものやスタッフによるケアの提供とそれに対する反応を意識した利用者主体の記録を心がけている。他に気づきや工夫は個別のケアカンファレンスにてスタッフから情報収集し、さらに共有し、以降のケアの実践や計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的に看護師（非常勤専任）による健康管理を行い持病に対して適切なアドバイスを受けたり、また体調の変化に早期に気づき・受診を心がけ入院まで至らないように努めている。近隣の独居高齢者に対しても民生委員の協力を得て働きかけている。		今後、医療処置が必要になった場合においても可能な限りはホームでの生活が継続できるような体制を事業所全体で整えるよう努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、近隣とのふれあいが少ないながらも協働されている。警察も行方不明者等で電話したり出頭したりでお世話になっている。消防についてはまだ協働に至っていないので取組んでもらいたい。		少しずつ予定を立てて取り組む姿勢があるのでこれから期待したい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーである薬剤師とは運営推進会議や日々の薬に関する相談等で連携はしているが、なかなか他のサービスの活用までは至っていない。また、理美容は希望される利用者は近隣の理容室へ自由に通ってもらったり、定期的に美容師の訪問を受けヘアカットをしてもらっている。		今後、利用者の状況や希望に十分にに応じることが出来るようにホームで提供している介護保険サービス以外のサービスとの連携（まずは情報収集から）努めたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携はとれていない。が、民生委員、地域住民、スーパーの店員さんなど少しずつではあるが利用者と顔なじみの関係が出来てきており、行方不明時などにはお伺いできるようなネットワークはできはじめている。		運営推進会議への地域包括支援センターの職員の参加、権利擁護、総合的なケアマネジメントを含めた包括支援センターとの連携に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>大事な問題なので事業全体で取り組むことを期待したい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>これから段階的に話し合いをしていく取り組みを期待したい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>もっと深い部分の引き出しをしていくこと、話をすることで見えてくることもあるので、雑談の中で利用者の歴史を知っていくよう期待したい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>職員が休憩等で少なく温かい見守り支援が出来ないときは、お茶・お話で少し時間をずらしてもらったりしているが、行動制限につながらないよう取り組みを期待したい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>洋服売り場に出かける回数を増やし、楽しい時間を過ごしてもらう支援を期待したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>ご本人の拒否による失禁があるので、利用者の意思と気持ちを尊重しつつ、見守り、声かけを徹底してもらおうよう期待したい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>利用者の主体性を重んじると生き生きとしてくる様子がよくわかる。これからも自分らしく楽しくを大切に、利用者との時間を共有してもらおうことを期待したい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん、家族と話し合い、利用者さんの希望日に希望の金額を所持してもらっている。所持管理が出来ない利用者さんについては職員が買い物の見守りし、支払いはご本人でもらうよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住宅街なので真夏、真冬の散歩は難しい面もあるが、車にての外出で支援している。配偶者に会いに行かれる利用者もみえるが、希望に沿って外出できるよう支援している。また一人で外出される利用者を安全に行かれるよう支援している。		今後も楽しく外出できることを継続できるよう期待したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一日中、外出・散歩が絶えないが、夜の夕食、結婚式の参列等利用者の希望がかなうよう支援している。職員が楽しめるほどである。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話をしている。手紙は1ヶ月に1回は書いてもらっている。また返事をもらいとても喜んで利用者をみることができ職員もとても積極的に支援している。また手紙が書けない利用者については職員が代筆、様子を書くなど支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特にしていることはないが、鍵がかかっていない開放感がある。訪問があった時は他の利用者まで喜んで迎えてくれるほどよい雰囲気作りには力を入れている。		手紙を出すことによりコミュニケーションが取れるようになったこともあり、今後もいろいろな人からの支援を取りこみ前進することを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が自分の身において考え、自分の事のように真剣に取り組んでおり身体拘束及び言葉による拘束にも気を配ってケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけたい利用者がいるが他利用者は居室、玄関に鍵をかけていない開放感を満喫している。館内もエレベーターにより移動が自由である。職員は外出される利用者には声かけ見守りをし地理不案内の利用者には後から追いかけて、様子をみて一緒に散歩を楽しんでいる。		リスクマネジメントも会議で十分に話し合い、今後も出来るかぎり希望に添えるよう取り組んでいくことを期待する。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホームにおいてとても重要なことと位置づけている。ドアを開けるときは必ずロックをし返事をもらってから開けるよう配慮している。聞けてもらいたくない場合リスクを話了解を得ている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事務所に一時預かり、必要とあらば書類もつくり、サイン、印鑑も押し、危険防止に取り組んでいる。必要な時は何時でも言ってもらおう様フォローしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況を把握し、ケアカンファレンスをしてケア向上につなげる取り組みをしているが、まだ転倒等事故あるのでもっと防止に取り組んでほしい。		事故防止のため、職員の意識の向上と勉強に取り組んでいくことを期待したい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	不定期に勉強しているが、まだの部分がある。		研修会、講習会に参加することを期待したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回と数回の話をしたぐらいである。防災対策は最低限、取り組んでいる。		住宅密集地であるので（4階建てである）地域の協力を得られるよう運営推進会議での話し合いの取り組みを期待したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に起こりうるリスクについて家族に説明し、理解をもらうよう話し合い、自由で楽しい暮らしをしてもらう取り組みをしている。		大切なことと位置づけ、今後も取組んでいくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に見守りとご本人告知で異変を察知している。職員間の報告・連絡・相談は力を入れて取り組んでいるのでよい対応が出来ている。		今後も利用者の体調変化には心配りを怠らないよう期待したい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームドクターから説明を受け、また薬剤師にもよく相談にのってもらっている。特に新しく処方された薬については家族の方にも電話で相談、了解のうえ服用するよう取り組んでいる。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ホームドクターから話を聞き、介助の利用者は記録し、自立の人にはさりげないときに確認している。食事のメニューも工夫し、散歩、外出を働きかける取り組みをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご本人が自発的にやられている。介助や見守りが必要な利用者には声かけにて支援している。義歯管理が出来ない利用者は夜中職員が預かり洗浄している。口腔ケアの説明会も受けたことがある。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を調査したことがあり、よい結果がでている。ホームドクターに相談し、嗜好も考慮の上栄養バランスを考えたメニューにしている。また年4回1週間食事・おやつの写真をとって栄養士にアドバイスをもらう取り組みをしている。食事についてのアンケートを利用者からとって検討もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は毎年受けている。時々バイタルチェックとホームドクターでの健康診断も毎月受けている。ホームでできる手洗い、うがい、清拭等も励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については毎日買い物をし、新鮮なものを火を通す調理を心がけている。フキン、包丁、洗いかご等毎日消毒・洗濯をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉢・車・自転車等が整理され、プランターなども通行の邪魔にならぬよう安全と美観に工夫している。また看板も安全に取り付け板につけてあり、しかも手作りの看板である。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については利便性の追求（利用者の希望）である殺風景なシンプルさがある。が、窓のカーテン等リサイクル布地で利用者の手作りである。ガラスも防音ガラスを使用。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの配置に気を配り、居間においても独りになれるし利用者同士の歓談もできる。自由で楽しい憩いの場になっている。		利用者主体の雰囲気作りを今後も取り組むことを期待したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室内は日照を考えた配置になっている。御家族 の方のご厚意により使い慣れた家具を持ってみ え、自分の好み、使い勝手が良いう工夫されて いる。まさしく、自分の城とされている。毎日配 置換えをしている利用者もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	1日数回の換気をしている。状況に応じて、温度 調節を考え、着衣による温度調節もこまめに行っ ている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	車椅子の人が他の方と仲良く生活できるよう家具 配置、トイレの大きさにも配慮、一人ひとりが自 立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個性的な利用者が多く、ケアがうまくいかず混乱 や失敗が起こり、利用者同士の喧嘩に発展してし まうことがある。工夫する取り組みをしてもらい たい。		個性、状況判断が出来ていてもケアに活かさない 場合があり、自立のみならず喜びを見出してもら える更なる向上を期待したい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには花壇を作ったり、野菜を栽培し たり利用者がとても楽しみ世話をしている姿があ る。がベランダについては洗濯干しのみで利用に いたっていない。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんの喜怒哀楽がとても発揮され、明るく元気なホームである。職員が利用者さんにとっても気持ちを入れてケアに取り組んでいる。利用者さんの表情、言葉、動きに(不穏)臨機応変に、その方の得意な裁縫、絵画、書道、料理、園芸等を生かしてケアを楽しんでいる。利用者さんの豊かな表情が職員の喜び楽しみ悲しみになっている。利用者さんにとっては”自由に思うがままに外に生きたい”が一番である様で特に外出には力を入れている。1日おきぐらいに他施設にいる配偶者に面会に行く方がいるが、その支援に前向き取り組んでいる。